

○建設部長（小野光朗君） それでは、野口議員さんの二回目の御質問に対して御答弁申し上げます。

まず、一点目の西口再開発でございますけれども、結論としては、まだきちんとした文書等はいただいております。ただ、先ほど市長の答弁の中でありましたように、アンケート等を実施したり、あるいはいろいろと会合等を持っているようにございます。その中では、何かこう今、市長答弁のありましたとおり、駅前の拡幅整備というふうな考え方のようでございます。そうしますと、昭和五十一年に西口再開発の組織ができましたから、いろいろと鋭意いろんな調査等をやっているわけでございまして、その構想等もあるわけでございますけれども、それとの計画とは大分変わってくるかなと思います。ただ、いかにしても、地元の西口再開発の協議会の皆さんの御意見というの、やはり、それはそれで非常に大事にしながら、いらないんじゃないかと思えます。その辺のところを尊重しながら、かつ実現できるのはどの辺がベターかというふうな問題、いろいろ今後考えなくてはならないと思います。いずれにいたしましても、あそここの地域をやるというにしても、やはり過密した市街地であるということと交通安全の便利性というふうな問題と円滑化という問題と、それとまた防災というふうな立場からどうするかという問題があるし、また、根本的にはあの地域一帯を再開発しまして、福生の商店街の顔になるというふうな、非常に大きなメリットもあるわけでございます。それらも含めまして、そういう各協議会等の御意見等も参考にしながら、また、権利者の関係もありますし、居住者の関係もあって、非常に難しいし、また財源的な問題もあるんじゃないかと思えます。そういうふうなことも含めまして、今後、それらの意見が出てまいりました段階で、大きな目で、しかも実現可能な問題というのはどれかということ、いろいろと、また議員さんあるいは関係者の皆様方と相談しながら進めてまいりたいと思えます。

それから、次に二回目の銀座通りの問題でございますけれども、問題点というふうに言ってよろしいんでしょうか。調査をまだしていないんでわからないんですけれども、一つには、銀座通りを銀座通りだけの道路ではないというふうな、やはり通過するということもあるから、車両交通のことを考えなきゃいけないし、グレードアップというだけでいいのかなというふうなことがあります。ただ、グレードアップというか、イメージチェンジしただけで人が集まってくるのかというふうな問題もあるんじゃないかと思

ます。それから、三つ目には家並みとか店舗、それとそれに伴う商店街の共同施設、まあお客を誘引する施設——ベンチとか縁とかあるいは水飲み場とかトイレとかいろいろなさまなものがありますし——楽しい商店街にするために、こういうふうな商店街の方はお考えになられているのかなというふうなこともあると思えます。それから、四つ目には道路機能を越えて、要するに道路だけじゃないというふうな、何かこう買い物道路みたいになってきますので、道路の面だけではないので、その辺での地元負担というものは、どういうふうになっているのか。あるいはどの辺の財源があるのかというふうな問題。それから、将来、五つの銀座通りでございますけれども、商店街がこんなふうな夢のある店になるんだという展望をうちの方とも相談しながら考えなきゃいけないんじゃないかと思えます。

そんなふうな点もいろいろあると思えますので、今後これらの点で地元の方々の意思統一が図られたり、あるいはまた、市と連帯しながら、そのための努力をしていくということであれば、私の方としても十分検討してまいりたいと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

○三番（野口秀世君） 三回目ですけれども、要望にいたします。

西口の問題でございます。余り結論が市長の方に届いてないうちに質問したようで、まことに申しわけなかったんですけれども、いずれにしても、期限を切ってあるんで、近々結論が出てくると思います。つまり、結論としてどんなふうなものが出てくるかわかりませんが、とりあえずは道路を拡幅して、歩道をつくるという結論が出てくるんだと思います。それに向かって全力で皆さんも投球していただきたというふうな期待をしているんでございませうけれども、例えばそれができ上がったとしても、再開発としては、一段階終わったというふうな感じでとらえさせていたただきまして、最終的には当初計画したような大きな開発が終わった時点でその西口再開発計画というのが、最終的に終わるんだというふうな、私は理解しておりますので、これから強力に力を貸していただくといいいますか、バックアップをしていただいて、すばらしいものにしていただくようにお願いをして、この問題を終わります。

次に、銀座通りでございますが、今聞いただけでも、五つばかり大変な問題点が出てきております。まさに大変な仕事でございますけれども、何とかしなければならぬと商店街の皆さんも大変問題にしてい



問題になっているのは、非常に物があつてお金があつて、いろいろと事を解決するのにお金で、また、物で解決しようという気運が大変ございます。私はそれも大事ではありますが、やはり小さいときから、小学校、中学校、高校、この時代において、心の豊かなそういうものをはぐくむものを、ぜひ育てていただきたいな、そういう願いから、できることであるならば、我が福生市においても、全校のお子さんたちがこのボランティアの指定校になっていただいて、そして地域社会にあつても、また自分たちの仲間においてもそうありますが、本当に心の通った思いやりのある、そういうお子さんに育っていただきたいなと。そして、その中で親たちも含めまして波及していく、そういうことを乞い願つておるわけでございます。ひとつぜひそういうことでございますので、忌憚のない御答弁をいただきたいと思います。壇上からの質問といたします。

(市長 石川彌八郎君登壇)

○市長(石川彌八郎君) 赤星議員さんの御質問にお答えを申し上げます。

最初に、国際都市を目指してということ、その第一点目の世界村建設についての御質問でございますけれども、福生市の特徴的な面からとらえてみましても、福生市の商業集積は相当なものがございまして、今後とも福生市は商業のまちとして位置づけられることがよいと思つております。また、外国人登録人口も比較的多いことからしても、国際化を目指したまちづくりが考えられるところでございます。これは御承知のとおりだと存じます。若者を初め多くの人々が集まるまち、外国人とも交流できるまち、このようなまちづくりは福生市を特徴づけ、個性的なまちとしていく方向かと存じます。その具体的な施策として御提案いただきました、例えば外国物産展は、国際都市づくりを考える上では大変結構な施策だと存じます。このような催し物が開かれることにより、人の往来も多くなりましょうし、それによる経済的波及効果もぜひ期待したいところでございます。これら御指摘の点を踏まえまして、どのような方策としていくか。これは、市内の商業者の皆さんや商工会とも相談しながら検討してまいりたいというふうに思つておるところであります。

次の国際都市を目指しての第二点目でございますか、姉妹都市提携でございますが、私も福生という市

が国際都市を目指していくことであるとするならば、当然姉妹提携につきましましては、これは関心を持っております、必要も感じておるところでございます。例えば、アメリカの都市などは福生市の国際化を考えますときに、候補地として対象に入るものと考えています。先進諸都市のお話を伺うところでは、提携をしようとする両都市間にどのような共通の環境、条件といったものがあり、互いにどこまでそれらに強い関心を持ち理解をしあえるか、つまり、環境や諸条件が一致を見まさんと、なかなか提携にまで至らないというようなことを伺っております。いわば、何と申しましょうか、御縁と申しましょうか、この点では外国都市との仲介の労をおとりいただける方がおられますと、事が順調に運ぶことでもありましようし、とりわけ市民の方の中にそういう方がおられますと、大変幸いです。いづれにいたしましても、市としてもあるいは私といたしましても、この姉妹提携の事業は前向きに進めてまいりたいというふう存じております。よろしく御理解が賜りますればと存じます。

それから、続きましてのコミュニティーについてお答えをいたします。

横田基地を活用したコミュニティーを考えられてないかという御意見をちょうだいしたわけでございますけれども、このことは、まず、米軍との基地の共同使用ということになるわけでございまして、この点、最も大きな障害となりますのが安全保障条約上の制約ではないかと思つております。さらに、これに伴います運輸省の許認可の課題もございます。また、その事業の基本的な問題といたしまして、採算性の課題が、大きなものではないかと。これまでのところ、国内のコミュニティー航空事業は、その運営が非常に厳しいと聞き及んでおりますし、例えば成田、羽田方面ということになりますと、利便性が買われて利用客も多くなるかと思われましても、いづれにいたしましても、この面では運輸省でも来年度以降の新規コミュニティー空港設備については、採択を見送るやに聞いております。ところで、広域的な視点で検討をういった意味において、なかなか条件的に厳しいようではございます。ところで、広域的な視点で検討をされないかという点につきましても、既に西多摩広域圏協議会においても投げかけをいたしておりまして、今後とも御指摘の点を考慮いたしました取り上げにつきましても、要請を続けてまいりまして、環境づくり情勢づくりに努めてまいりたいと思ひます。この点、よろしく御理解のほどお願いを申し上げます。次第で

ございます。

それから、ボランティア活動普及及び事業協力校につきましては、教育委員会より答弁をいたさせますので、よろしくお願いいたしたいと存じます。

以上で赤星議員さんの一般質問に対します答弁とさせていただきます。

○教育長（来住野和也君）

ボランティア活動についてのご御質問にお答えいたします。

おっしゃるとおり、私もこれからの時代において、ボランティア活動というのは非常に重要な時代であることは同じ認識を持っております。また、子供のころからそういった心を涵養することが大事なことについて、全く同じ認識であります。ボランティア活動の教育につきましては、現在、教育委員会におきましては、その指導目標に、心身ともにたくましく、心豊かな児童・生徒を育成するということを掲げまして、校長会等を通じて、ボランティア活動の充実について、各学校に要請し指導しているところでございます。また、各小・中学校におきましては、道徳あるいは特別活動の時間を通して、思いやりの心、奉仕の精神、弱い立場等にある人をいたわる心などはぐくんでいるところであります。特に御指摘のように、福生第五小学校におきましては、愛鳥活動という活動を通じて、また福生第三中学校におきましては、合唱ボランティアクラブというのがございまして、その活動を通じて、東京都ボランティアセンターからボランティア活動普及事業協力校としての指定を受けまして、その活動に取り組んでいるところでございます。ほかの学校におきましては、日常的に心の教育ということで、心の教育の充実を図っておりますが、特にボランティア活動として全校的な取り組みは、今のところまだいたしておりません。しかし、今後とも校長会等を通じて、ボランティア精神の涵養に関して、学校の指導を強く要請していきたいと考えております。この間、二中の——これは指定校ではありませんけれども——ブラスバンドが多摩橋のそばにありますサンシャインビルの方から、あそこの方がどこかほかでやったのを聴きになって、非常に良かったから、ぜひ御老人に聴かせてくれないかということと要請を受けまして、二の中のかたにも直接会ったわけですが、サンシャインビルに行きまして演奏を行いました。非常に好評だったというふうに聞いております。そんなふうにボランティア活動のチャンスを教育委員会としてもできる

だけ用意し、あるいは聞き込み、そしてそれを学校の方に提示することで、案外小学生、中学生たちがそれに協力する姿勢を積極的に出してくれるのではないかと、そんなふうなことも考えております。以上でございます。

○十四番（赤星行人君）

それでは、自席からお許しをいただきまして再質問をさせていただきます。

国際都市、世界村建設でありますけれども、大変前向きな御答弁いただきましたありがとうございます。私の申し上げたいのは、一つのヒントを得たのは、栃木県の日光・江戸村、それから岐阜県の明治村、北海道のコタン部落、こういうところから、我が福生市にもそういうものがあっていいんじゃないかなということの発想でございます。そういう中で、大変、行政の方にもお骨折りいただいたんですが、一六号線沿いの横田商栄会、それから福生武蔵野商店街振興組合、千六百メートルの場所が大変ユニークなまちづくりに変わりました。先ほど、野口議員からも発言がありましたように、福生駅が顔だということでございますが、確かにそのとおりで、そうすると十六号線が表玄関だということ、私は青梅線以東の中で、この世界村というものを、ひとつ考えてみたらどうかかなと思います。ということは、一六号線の新しいまち並みと、それから、市民の声の中で言われたことは、八小の建設予定地があげられているので、これをひとつ考えてみたらどうかかなということです。それで福生駅、この点と線を結びますと、すばらしいユニークな世界村ができるんじゃないかなあと。そして、理想を言うならば、奥多摩の方まで延ばしまして、一つの観光ルートにする。こういう考え方も成り立つと思うんです。そして、福生の中では一六号線をショッピングしていただいて、それで世界村へ来て、それからたまたま福生には二カ所酒造会社があります。田村酒造、石川酒造、この二カ所を観光バスのルートにして、定期的に運行していただいたらどうか。こういうようなことで、起爆剤になるならばということ、ひとつ御提案を、また御提言申し上げたわけですね。明治村だとか江戸村に実際に行ってみますと、それなりのお客さんが来ているわけですね。ですから、商店街が潤えば、必ずこれは税収もふえるのではないかな。これは難しい問題かと思うんですけれども、やはり人が動けば必ずお金は落ちると思います。この辺のとらえ方がございますので、ひとつぜひ青梅線以東でとらえるか、八高線以東でとらえるかは別として、福生全体の中で、たまたま福生駅

があり、そして八小建設予定地が、たまたまそこにあります。そして一六号線がある。で、これが可能ならば、青梅線以東の中で一六号線に近い方で空地を考えていただいて、何かそういうものを、一氣に行かないにしても、福生の場合、イベントの大きいやつでいえば七夕ですが、これに変わるべきものはほとんどないと思います。ですから、こういうものができてくれば、必ずや私は福生の商業の活性化ということで、起爆剤になるのではないかと。こういうとらえ方でございますので、もう一度ひとつ市長の考えをお聞きしたいと思います。

それから、姉妹都市についてでございますが、これは提携についてはいろいろと難しい問題もあらうかと思えます。しかしながら、国際都市にふさわしいことと考えるならば、好き、嫌いもあらうかと思えますけれども、市民の方々の声を聞きながら環境、条件、そういうものを踏まえて、ひとつ御検討していただきたいな。それで、積極的にひとつアタックしていただきたい。これはお願いをしておきますが、市長の決意のほどを伺います。

それから、第二番目のコミュニティーについてでございますが、私はこれについては、我が福生市には、もう前の実は六十二年の三月のときにも質問の中で申し上げたんですが、福生にはモノレールが来ない。それから圏央道も来ない。そうすると、もう完全に孤立無縁といっちゃオーバーですけれども、非常に難しい経済情勢があるんじゃないか。そういう立場に置かれちゃっているわけです。これは政治の力をして、モノレールが福生へ来るならば、私は商業の活性化につながるかと思うんですが、そういうことも踏まえてみて、どうしても来そうもないから、基地をうまく利用しようじゃないかというのがねらいでございます。立川市が、恐らく三年ぐらい前に三千万円の調査費を計上して、既に動いております。それから、調布の飛行場も、これは都営飛行場として、ことしの三月都議会において、鈴木都知事がコミュニティー化を表明しております。そういう実態を踏まえた場合に、そういう気運が、我がこの三多摩の中に起こりつつあるという現実をよく直視していただきたいんです。空港整備には第一種から第四種、その他というところで、四種までであると思うんですが、第一種が国際空港なのです。それから、第二種が国が設置管理するものであります。それから、第三が地方公共団体が設置管理するもの。それから、その他ということにな

ります。こういうことを踏まえていった場合に、基地があります。あそこは滑走路が一本しかないからだめだとか、いろいろ言われておりますけれども、私は自分なりの論法でいくならば、やはり最終的には政治力ではないかな。私は常日ごろそういう考え方を持っております。山梨と提携するというのは、山梨には大ボスがおります。名前を言わなくても金丸氏という人がおります。その辺のとらえ方を見ながら、山梨県と手を握って「どうだい」と、そういうひとつのテクニク。それから、埼玉の西部寄りの方には建設大臣やった人もおりますし、いろいろと政治家の大物がおります。その辺を踏まえながら、難しいといっていたのでは、これはもう何にも私はできないと思うんですね。やはり、結論を出すのはちょっと早いかもしれません、やはりやる気の問題だと思えます。やる気があれば、先ほどほかの議員さんの答弁の中でも、やはり根気強くやるんだとおっしゃってましたけれども私もそうだと思うんです。根気強く、粘り強く、そして、市長は政治力の非常に抜群の方ですから、ひとつ知人、友人を介して、行政の四百三十のノウハウを結集していただいて、そして、ぜひこの実現化に向けてお骨折りをいただきたい。必ず私は道は開けると思うんです。相手があることですから、話し合えばできるんじゃないかな。話せばわかるという言葉がありますが、私はそのとおりだと思っておりますので、ぜひひとつこの辺についても、もう一度お伺いをいたします。

それから、三番目の教育行政でございますが、ボランティアの指定校について、私は実は三中の校長さんに会ってまいりました。実態調査と言っては悪いですが、実際の生の声を聞いてまいりました。教頭さんも、後でお会いしていただいたんですが、いろいろと話を総合してみますと、三中のボランティアの経緯については、五十八年当時、秋山先生というすばらしい女性の先生がおられて、その先生が顧問教師として、生徒会だとかそういうところに話をして、そういうものが芽生えてきたというふうに承っておるわけです。いろいろな形で敬老会、文化祭、体育祭だとかいろいろと年寄りを呼んだり、また、こちらから老人ホームへ行ったりというようなことで、いろいろと御努力をしておられるようでございます。

それで、これは私が最も共感を得たのは、ボランティア広報「ほほえみ」という、社協から出ているボランティア広報がありまして、その第四十一号の平成元年二月十五日発行のものでございますが、私も読

んでいて、すごく感銘したので、これを皆様方にお読みしますので、なるほどこういうすばらしい子もいるんだなあと御理解をしていただきたい。

クラブ活動の感想文で、福生三中三年増田恵美さんです。「私がボランティアという言葉を知ったのは三年前でした。福生三中に来て、ボランティアクラブに入部してからです。はっきり言って、意味などよくわかりませんでした。クラブ活動を通じていろいろな人に会えました。老人ホームへの定期訪問や青梅学園の行事参加などで、体の不自由な方たちのお世話ではなく、一緒に楽しむなどということを経験しました。車いすの人も知恵おくれの人もみんな同じ人間です。だから、少しでもその人たちが暮らしやすい環境をつくることは、とても大事なことです。その第一がボランティアなのではないかと思っています。だからといって、数学の方程式や英語の文法のように、難しく考える必要はないと思います。身の回りにもあるちょっとしたことに目を向けて、気づいたことをしてみても、そして、自身も楽しむことができれば、とても幸せな気分になります。三年間のクラブ活動は、私にとって、とても大切な時間であったと思います。ボランティアを知って、私の考え方は随分と変わりました。」ここなんです。「いつしかボランティアクラブという特別なクラブがなくなっていて、当たり前のことや当たり前にできるときが来るといいだろうと思う私です。」ということが書いてございます。私は全くそのとおりだと思えます。こういうすばらしいお子さんが、もう既に中学校を卒業なさって、現在、多摩高校へ行っておられるそうでございます。そういうことで、ボランティアというのは非常に大事なことだから、私は、事業普及実施要綱の中に、目的として、小学校・中学校及び高等学校の児童・生徒を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、社会奉仕、社会連帯の精神を養うとともに、児童・生徒を通じて家庭及び地域社会の啓発を図ることを目的とするということで、これは東社協、すなわち東京都社会福祉協議会の東京ボランティアセンターから出ているものでございますが、この三中が指定を受けているわけです。ただ三年間の指定でございまして、来年の三月に指定校が解けるわけです。十万円、このセンターから補助金が出るそうでございますが、来年の三月になると、指定校が解除になって補助金もなくなるわけですね。ここで、やはり私は、せっかくそういうすばらしいものができたんですから、このクラブ活動をやはり全校にお願いしているわ

けです。三中がこのまま継続したいというお気持ちでございましたので、ぜひ、予算の問題については行政サイドで考えたいので、ぜひひとつ温かい目で見守っていただきたいと思います。この辺についても、御意見を承りたいと思います。

そういうことでございますが、いろいろと申し上げましたけれども、このボランティアというものは一夜にしてできるものではありませんし、本当に人として、やはり相手の立場が理解できる。そして、痛みがわかり、涙してわかるような子供に育てたいというようなことも、ほかの文面の中から読み取れたことがありますけれども、私も全くそのとおりだと思います。やはり、そういう子に育てることによって、すばらしい福生のまちづくり、そして、ひいては国際社会人として育ていくんじゃないかなと、こう思いますので、その辺も踏まえて、もう一度御見解を承りたいと思います。お願いいたします。

○議長（仲村清信君） 二時まで休憩いたします。

午後一時五十一分 休憩

午後二時

開議

○議長（仲村清信君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（石川彌八郎君） 先ほどの赤星議員さんの御質問でございまして、赤星議員さんのお考えとしては、このままの状態が福生市がいいのかどうか。やっぱり、もっと活力のある、しかもユニークな、そういったまちづくりをしなければいけないんじゃないか。そして、福生市の置かれている状況というのは、隣に飛行場があり、そしてまた、したがって国際化を進めていくといったような、そういった環境下にあるわけであるから、そういったような地の利と申しますか、それを利用して、これも一つの話でございまして、まあ大いに日本に冠たる福生市を創造したらどうかと、こういった願いを込めての御質問であったかと思っております。そのために、基地があるから、いわゆるコミューターの問題であるとか、あるいはまた、基地があるから世界村建設であるとか、そういうことであるかと思っております。私も全く同感でございます。やはり、福生の特性を生かして、これがデメリットかメリットかはいざし

ず、特性を生かして何らかの形で福生市というものを、もっともっとクロージアップさせなければいけない。その方策として、こういった二点を挙げられ、なおかつ姉妹都市の問題も言われたんではないかというふうに思っております。私は全く同感であります。

まず、その姉妹都市の件でございますけれども、これは私はことはできないかもしれません。あるいは来年もひょっとするとできないかもしれませんが、再来年には何とか姉妹都市は、これはやらなくてはならないのではないかとこのように思っております。

それから、いわゆる世界村でございますけれども、これも非常に何と申しますか、気宇壮大と申しますか、一つの福生市を特徴づけるためからいっても、非常に重要なことであるわけでありまして、今、八小予定地というお話が出たわけでございますけれども、八小予定地のあのくらいの面積でどの程度のものでできるかどうか。やるからには、かなり広い場所が必要ではないかといったような、そんな気がするわけでございます。例えてみますれば、もし仮に、あそこに仮にできたといったとしても、駐車場の問題であるとかいろいろの問題があるわけでございます。しかし、先ほども申されましたように成せば成ると申しますか、やる気があるか否やというふうな問題でございますので、この問題については十二分に検討していきたいというふうなことでございますが、いろいろと今度は、実務的に考えていきますと、なかなかクリアーすることも難しいというふうには思いますが、しかし、最初からできないというふうなことであれば、何もできないわけでございますから、検討をしなければいけないというふうには思っております。ただ、ちょっと狭いのではないかとこのようにうな気はいたしております。この問題についても、検討させていただきますとは思っています。

また、このコミュニティーの問題でありますけれども、これは現実問題として、採算性というふうな問題からいきますと、調布等々も、なかなか難しいといったようなこともございますし、それから、また例えてみますれば、確かにそういったようなものがありますと、非常に羽田へ行くにも成田へ行くにも、非常に重宝であるわけでございます。私見でございますけれども、今ですら大変な騒音というふうなことが、とかく言われておるわけでありまして、利用者と、それから騒音との問題をどういうふうな比重にかけた

らよろしいもんかどうか。あるいはまた、先ほど申し上げましたように、採算性の問題、あるいは日米の関係といったような問題等々で、これをクリアーするのは、なかなか難しいんじゃないかというふうには私としては思っておりますが、しかし、いずれにいたしましても、そういう方向でいろいろの問題を模索して進めていくということが、やはり新しい福生市発展のためにつながるものであるというふうには思っております。わけでございまして、大変貴重な御意見を伺いまして感謝をしておるところでございます。微力ではありますが、これから鋭意検討はさせていただきたいとは存じます。そんなような御答弁で御勘弁願えればと存じます。

○教育次長（古谷正夫君） 自席からお許しいただきまして、教育行政について、御答弁させていただきます。

御質問の福生第三中学校の合唱ボランティアクラブでございすけれども、東京都の指定が三年間、来年で切れた場合にどうなのかというふうな御質問でございます。この問題につきましては、青少年問題協議会におきまして、過日善行表彰をさせていただいたわけでございます。御承認いただきました。九月に市長から善行表彰するというふうなことでございます。そのときに聞きました内容につきまして、校長から聞きましたわけでございますけれども、現在、活躍いただいております部員は七名ということでございす。この七名につきましては三年生で、来年卒業するというふうなことで、卒業したら後輩はどうなんだというふうなことで、校長に確認をいたしましたところ、後輩が後に続くというふうなことでございす。そういうふうなことでございすので、このボランティアクラブが継続された場合につきましては、財政ともよく十分協議いたしますけれども、やはりこういうふうなことにつきましては、非常にすばらしいこととでございますので、財政措置をさせていただければというふうな考えでおる次第でございます。よろしくどうぞ願います。

○十四番（赤星人君） それでは、最後になりますけれども、市長からも大変前向きな、そして何とかしないではいけないというふうな強いお気持ちのあらわれがございましたので、そのお気持ちをぜひ続けていただきたいと思ひます。

国際都市世界村建設についてでございますが、これはやはり人間は高いところに理想を持ち、夢を求め、そしてロマンがあつていいんじゃないかなということ、常に私もそういう姿勢で今日も動いております。ですから、そういうものがあつて、楽しさがふえていくんじゃないかと思ひますので、ぜひ世界村建設に向けては、特段のお骨折りをお願いしたいと思ひます。私はできることであれば、世界の福生というすばらしいタイトルで、世界に冠たる福生だと言われるくらいになってほしいという願ひがあるわけでございます。それから、国際都市にふさわしく、できることであれば、小冊子、イングリッシュ——英語——のもの、福生の人たちが、もちろんいろんな形で会ったときに、外人さんから質問受けたときでも、ステーションはこちらとか、庁舎内でも税務課はこっちですとか、そういうような簡単なある程度の会話ができるようなものがあつてもいいんじゃないかと。小冊子かもしくはいろいろ考え方がありますが、議員の便利手帳がありますね。こういうのはポケットにぱっと入りますから、そういうとらえ方もあるんですが、これはひとつぜひ実現に向けてお願いをしたいと思ひております。この辺一点、またお尋ねいたします。

それから、コミュニティーでございますが、これは採算ベースとかいろいろ問題があるかと思ひます。騒音の問題もあるでしょうし、また地域住民の方たちの反対・賛成いろいろあるかと思ひます。そういう中で、時代の流れでございますので、先取りがいいか、その辺のとらえ方もあるかと思ひますが、ぜひ前向きに御検討いただければとかように思ひます。

それから、教育行政についてであります。ただいま継続については云々ということでございますので、ぜひそうあつてほしい。

それから参考までに、私の資料の中で現在モデル指定校になっているのが、六十一年度が六十三校、六十二年度が三十六校、六十三年度が八十三校、現在合計で百八十二校、その中で公立が百五十六、私立の学校が二十六です。ちなみに申し上げますと、小学校が七十二、中学校が八十四、高校が二十四、その他二でございます。合計で、現在百八十二校、指定校で頑張っているそうでございます。そういうことで、ボランティアについても、機会があれば、ぜひ校長先生方と語り合っていたいただいて、いろいろと問題点が

あるかもしれませんけれども、やはり頭になる先生の考え方、これが大事だと思ふんです。それから、顧問の教師の先生のとらえ方、こういうことも含めまして、ぜひひとつ御指導いただければと思ひます。調査しました結果、調布市においては、全中学校の生徒が体験学習という形で養老院へ行つて、そして実際の体験をしているというようなことを、つい最近耳にしました。そういう現実もございます。他市の状況を私は云々と申し上げません。福生市はいいことはどんどん取り上げていただいて、そして、どんなにやっついこうじゃないかというのが、私も含めて恐らく行政の皆さん方もそういうお考えだと思ひますので、よそが云々でなくて、福生市の独特の立場でとらえていただきたいなど、かように御要望申し上げます。

最後になりましたけれども、小冊子について一言お答えをいただいて終わりたいと思ひます。よろしく願ひします。

○企画財政部長（野沢久人君） 国際化の進展に伴ひまして、市民の方々を含めましてさまざまな形で交流をしていく、そのベースになる語学ということになると思ひますけれども、そういう意味で、お互いにわかりあえるような形で小冊子みたいなものというお話でございます。確かにそういった状況になつてまいらと思ひますので、だれがどんなふうに使つて、どんな場面で必要な場面の事柄をもつていくのかといったような問題の研究を含めまして、実現できるような方向で前向きに検討してみたいというふうに思ひます。よろしく願ひします。

○十四番（赤星行人君） それでは、以上で自席からの私の一般質問を終わらせていただきます。

最後になります。ともかく何事でもそうですけれども、一つのことをやるということは大変な努力と忍耐と、そしてお金も伴ふと思ひます。そういうことで、市長さん初め職員の皆さんも、私どもも一生懸命頑張りますので、ひとつ陣頭指揮をとっていただいて、いいことから一つずつ片づけていただきたというのを御要望申し上げて終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（仲村清信君） 次に、五番須釜亮次君。

○五番(須釜亮次君) 御指名をいただきました。さきに提出しました通告書に基づき、三点の質問を行います。

まず、環境整備について、その一、ごみ対策についてお尋ねします。近年、急速に都市化が進む福生市、とりわけ地下高騰より、郊外都市化されつつある当福生市においても熊川郡営住宅や本年着工予定の武蔵野台市営住宅は高層集合住宅であり、居住者は市内居住者のみならず、新たに福生へ転入してくる人々が日常生活を営むはずであり、また、民間ベースにおいても分譲・賃貸を問わず、高層住宅を積極的に開発しております。当然、世帯や住民が増加することは、市の活性化にとり、非常に喜ばしい反面、生活ごみ、廃棄物の増加につながることは申すに及びません。しかしながら、ごみ集荷所の場所や管理状態にもよると思われませんが、特に福生市の顔とも言えるべき福生駅東側柳通りの一角の集荷場所の状況は、業務用廃棄物を含めて路上にはみ出し、歩道を通行する歩行者に多大な支障を来している現況を見るにつけ、一体行政とは何ぞやという疑問を市民が抱いても不思議ではありません。十五億六千六百万円の施工費で完了した東口区画整理区域に路上放置のごみを見るにつけ、一般的には、福生市居住の市民世帯では、約七〇％が三十五町会または自治会に加入し、それぞれの地域から推薦された方々を初め、議会側からも選出されて組織されているごみ減量推進協議会等を通じて、環境整備に努力しているところですが、新設高層住宅、特にワンルームマンション及び商業ビルで営業する業者あるいはそのオーナーの認識が欠如している感が否めません。

そこで、お尋ねいたします。一つ、前年度に比較して今年度のごみの増減について。二つ、不燃化物及び粗大ごみの廃棄状況について。三つ、ごみ集荷所で引き取り不能の注意札が添付している粗大ごみを見かけますが、最終的にどのように処理されているのか。四つ目、福生市のごみ処理については、リサイクルセンターのごみ埋設処理限界の能力はいつごろ来るか。これは、ごみの埋設処理の限界でございます。いつごろになりますか。五つ目、高層住宅、商業ビル建設に関するごみ収集についての事前協議の指導について。以上五つをごみ対策の質問とします。

次に、路上違法駐車についてお尋ねします。御存じのとおり、路上の違法駐車は、今や社会問題になりつつあり、どの自治体でも、その解決に苦慮していることに理解を示すものですが、さりとてこのまま放置するわけにはまいりません。近代化を目指す福生市が、それにふさわしい都市機能を具備していくために、取り締まり当局の対応を待つのみでなく、車両保持者のモラルの向上を喚起することはもちろんであります。特に市民全体の共有財産としての公共道路、市道の管理責任者として、もし、道路上の違法駐車による事故が発生した場合の市の責任は重大なものであると思われれます。福生市は交通安全宣言都市として、内外に宣言してから久しいものがありますが、時代が変遷する中で、車による人身事故に対する交通安全という概念が車社会の到来により、違法駐車による道路利用者や災害時の緊急出動、また、医療救急車の通行の妨害等を防止することも含まれると解釈できるのではなからうか。

福生市でも、このたび市営住宅跡地に市民会館、市営野球場のための臨時駐車場が設置されますが、このことは施設利用者にとり、いやまた近隣住民や道路利用者は言うに及ばず、まことに適切な処置であると評価するものであります。車社会の到来とは申せ、狭隘な行政面積や、地価高騰の続く土地事情の中で、土地取得の難しいことは理解するのですが、現在、施設内の駐車場を別として、福生市にはいながら跡地と市民会館、野球場利用者用の、今回設置される臨時駐車場二カ所を含めて三カ所の公共駐車場がありませんが、この点について四つほどお伺いします。

まず一、みんなの道路を安全に道路としての機能を確保していくために、今後、市営駐車場の増設についてどのような考えをお持ちですか。二番目、市営住宅についての居住者の駐車対策はどのようなになっていますか。この内訳としまして、既設の市営住宅、また今後新設の市営住宅について、市内に設置の公園住宅、都営住宅等の場合の駐車場対策はどのようなになっておりますか。三番目、米軍人軍属、市内居住者を含む路上駐車に対する警告状況について。四番目、高層住宅、ワンルーム高層住宅の建設着工前の駐車場に関する建築事前協議の指導について、どのようなになっておりますか。

続きまして、第二番目といたしまして教育問題のうち、中学校給食審議会について、次の点をお尋ねいたします。一つ、中学校給食協議会が発足してから現在に至るまで何回ぐらいの協議会が開催されたか。

二つ、協議の経過について。三つ、今後の協議会のスケジュールについてお伺いします。

続きまして、不健全図書やホラービデオ等の対策について質問いたしたいと思いますが、この質問に入る前に、このたびの一連の幼児誘拐惨殺の犠牲になられた野本綾子ちゃんほか三名の霊に対し、また、御家族及び関係者に対し、衷心より哀悼の意を表します。この非常に悲しむべき幼児誘拐惨殺事件やその他、いかがわしい事件が続発しており、まことに憂慮に耐えない社会的大問題であり、その対策については個々の責任としてではなく、国民、市民全員があらゆる立場、機会を通じて、ゆがめられた人生観や価値観の矯正に努力すべきであり、特に感受性の強い幼児や育ち盛りの子供たちにとって、健全な社会環境を確保するための不断の努力を続けていきたいと願う次第ですが、新聞等の報道によれば、国や東京都でも緊急課題として取り組むとの報道がなされておりますが、福生市教育委員会として、過去に青少年問題協議会が、不健全図書の自動販売機からの追放運動に、非常に成果を上げましたことは、記憶に新しいものがあります。国や都の条例制定を待たずに、今後も協議会を核として、全市を挙げ各界各層の協力で大人の責任として、だれが考えてもよい結果を到底もたらすとは思えない、今、話題となっている一連の事件のもとと推定される不健全図書や残虐ホラービデオの店頭からの追放、あるいは十八歳未満への貸し出し規制等、表現の自由や職業の自由という難しい問題があるにしても、これらの運動を展開すべきであると考えますが、いかががお聞かせいただきたいと思います。

三番目の質問としまして、地域体育館についてお尋ねします。この件につきましては、私が昭和六十二年六月定例会におきまして一般質問しておりますが、その際の理事者の答弁は、当時、熊川地域体育館が十月開館を目指して建設中であり、市民、とりわけ福生地区市民のニーズにこたえるべく、できるだけ早い時期に、福生地区にも地域体育館を建設できるよう検討してまいりたいから、よろしく御理解のほどをとのことでありました。高齢化社会への対応についていろいろな分野で論議されておりますが、昭和六十三年十一月発行の福生市市政世論調査によりますと、高齢化社会に対する質問で、高齢期への準備として、調査対象の年齢にかかわらず、約四〇%の方々が体力の増進や健康の保持と回答しており、アンケートの第二位を占めております。しかしながら、平成元年度から平成三年度の福生市実施計画では、福生地区地

域体育館の建設に関する計画が見当たりません。せめて調査項目でも計上を期待していた次第であります。が、今や老若男女を問わず、健康のとうとさとそのための体力増進に関心があり、また、常に自治体の財政に危機をもたらし続ける国民健康保険財政や老人医療費の増加に歯止めをかける意味合いから、次の質問を行います。

一つ、昭和六十三年度の福生市市民体育館、熊川地域体育館、学校体育館の年間合計利用人員の状況について。二つ目、昭和六十三年度のスポーツ教室で婦人健康教室と老人健康教室の延べ参加者数と延べ参加者数に対する割合について。三つ目、健康増進を願う市民、とりわけ身近に気軽に利用できる施設がほしいとの要望を持ち続ける方々のニーズに、近い将来、福生地区に体育館を建設することにつきまして、どのような計画があるやをお尋ねいたしまして、以上で壇上からの質問を終わらせていただきます。

(市長 石川彌八郎君登壇)

○市長(石川彌八郎君) 須釜議員さんの御質問に御答弁申し上げます。

最初に、環境整備についての一点目、ごみの対策でございますが、御指摘のとおり、都市化とともに人口が増加し、市民生活が豊かになることにより、ごみの量がふえているのが実態でございます。福生市も年々ごみの量が増加しておりますが、六十三年度において全体のごみの量は一万八千三十六トンで、前年度より約四%の伸びを示しております。不燃ごみ及び粗大ごみの廃棄状況でございますが、不燃ごみにつきましては、地域を分け、それぞれ週一回の収集をいたしております。粗大ごみにつきましては、申し込みを受け、毎日収集しておりますが、処理につきましては、リサイクルセンターで行っております。また、ごみ収集所に粗大ごみが出された場合の最終的な処分につきましては、やむを得ず市で収集しております。リサイクルセンターの最終処分地限界の期限は平成十年度を予定しておりますが、ごみ量の伸びによっては、早まることも予想されるわけでございます。次に、高層ビル等の建設に関する事前協議でございますが、市の宅地開発指導要綱によりまして、ごみ収集所を設置していただくよう指導いたしておるところであります。

二点目の路上の違法駐車についてでございますけれども、違法駐車は交通渋滞、交通事故の原因だけで